

The background features a large, stylized teal arc on the right side, with various icons of buildings, trees, and people hanging from it. On the left, there is a green globe with a grid pattern, surrounded by icons of skyscrapers, wind turbines, and a car.

**FDK**

# CSR Report **2017**

FDKグループ CSRレポート

## ● Contents

トップメッセージ	2
身近な暮らしの中のFDK	3
事業を通じたCSRによる価値提供	5
製品ピックアップ!	7
中期経営計画1618	8
CSRマネジメント	9
7つの重点課題	10
1 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給	11
2 地球環境保全への対応	13
3 多様性の受容	15
4 地球と社会に貢献する人材の育成	16
5 ステークホルダーとの対話と協力	17
6 法の遵守	18
7 コーポレート・ガバナンスの強化	19
環境パフォーマンスデータ	21
グループ会社、概要	22

## ● 会社概要

会社名	FDK株式会社 (FDK CORPORATION)
創立	1950年
本社	〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号 品川クリスタルスクエア8階
資本金	28,301百万円
売上高	2016年度 (2016年4月1日~2017年3月31日) 連結: 73,682百万円
従業員数	(2017年3月31日現在) 連結: 4,103名
事業内容	各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売
主要製品	アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池製造設備、スイッチング電源、コイルデバイス、DC-DCパワーモジュール、積層パワーインダクタ、セラミック部品、トナー、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール

## ● 『FDKグループCSRレポート2017』について

### 編集方針

FDKは、FDKグループのCSR基本方針に基づくさまざまな活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、『FDKグループCSRレポート2017』でお伝えしています。

『FDKグループCSRレポート2017』では、FDKグループが定めたCSR活動の「7つの重点課題」に沿ってご報告します。

### 対象期間

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日)の活動を中心に報告しています。(一部それ以外の期間の内容も含まれます。)

### 対象範囲

FDKおよびFDKグループを対象としています。一部の報告は、FDK単体のものがあります。

### 参考にしたガイドライン

『FDKグループCSRレポート2017』は、ISO26000社会的責任に関する手引きや環境報告ガイドライン2012年版を参考に作成しています。

### お問い合わせ先

総務人事統括部 CSR・広報IR室  
TEL:03-5715-7402  
FAX:03-5715-7401  
E-Mail:csr@fdk.co.jp

## FDKグループのミッション

**「様々な形で社会に貢献できる  
エネルギーマネジメントメーカー」を目指します。**

これはかねてより掲げているFDKグループのミッションですが、まさしく、本業を通じて社会の発展とともに社会課題の解決に貢献しようとするものであり、経済価値である利益の追求と社会価値向上の双方を実現する概念である「CSV (Creating Shared Value)、共通価値の創造」に則したものであると認識しています。

FDKは1950年、マンガン乾電池の製造・販売からスタートし、培った電池材料技術をベースにフェライト(電子磁性材料)事業に進出。以来、電気化学技術、磁性材料技術、粉体技術などをベースとして材料・素材から研究開発を行ない、現在電池事業ではアルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池などの製品をご提供しています。電子事業では上記技術に加え、回路技術や高密度実装技術などを活用して電源トランスなどの各種電子製品を、さらには電池と電子の技術を融合したシナジー製品である蓄電システム製品まで展開しています。また開発面ではFDKの保有するCAE(Computer Aided Engineering)技術を活かし、材料・製品の開発設計初期段階からニーズに合ったご提案をすることにより、お客様の抱える課題の解決とともに、試作段階で生じる材料使用の抑制により環境負荷低減にも寄与しています。

このような取り組みにより、「手軽に購入でき幅広い用途に使用したい」、「仕事や趣味、娯楽用の機器に長くたっぷり使いたい」、「低温時の厳しい環境でも安心して使いたい」など、人々の暮らしに密着した様々なニーズに応え安心してお使いいただける電池や、医療・介護機器、防災機器、車をはじめとする移動体、通信インフラ設備などの人々の安全・安心に関わる産業機器の駆動用やバックアップ電源用電池をご提供しています。さらには停電や天災などによる緊急事態の発生時に必須であるアルカリ乾電池は、単1形～単4形までのすべてを日本で生産、迅速に供給できる体制を保有しており、また非常用電源としてニッケル水素電池を用いた蓄電システム製品もご提供しています。

電子事業においても照明器具、コンピュータ、スマートフォン、通信機器、車向けなど枚挙にいとまがない分野でFDKの省エネルギー効率製品などをご使用いただいています。これらの技術と製品の目指している所、それは私たちの生活に欠かせない電気のエネルギーを如何に上手に創り、蓄え、賢く使うかという、おそらく我々の社会にとって未来永劫のテーマであるエネルギーマネジメントという命題に対して、FDKグループならではの答えを提供し続けるということです。

## FDKグループのCSRマネジメント

FDKでは「FDKグループCSR基本方針」を制定し、その実践にあたって重点的に取り組む7つの重点課題を定めています。これらの課題への対応を通じて、国際的なCSR規範への準拠も進め、グローバル企業として責任ある経営を推進します。CSR活動の推進にあたっては、CSR推進委員会を設置し、FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU Way」の浸透、定着を図るとともに、新たな社会貢献事例、持続可能な社会とビジネスの在り方や7つの重点課題の対応状況の定期的なレビューを行なっています。

## 経営の基盤となるコーポレート・ガバナンスの強化

コーポレート・ガバナンスに関しては、その充実が企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、コーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じた経営体制・組織の見直し、必要な施策を実施しています。

コンプライアンス面では遵法を確実にするため安全衛生委員会、環境管理委員会、含有化学物質管理委員会、輸出管理委員会などを設置し、消費者課題については製品安全化推進委員会を設置するとともに、適切に取り組むための品質保証体制の充実を図っています。

FDKグループは、以上のような取り組みを通じ、「様々な形で社会に貢献できるエネルギーマネジメントメーカー」を目指すことにより企業価値を向上し続けていく所存です。

2017年6月

# 身近な暮らしの中のFDK

FDKグループの製品は、家庭や職場など人々の身近な暮らしに密着した色々な機器に使われています。社会インフラを支える機器や車、また医療・福祉の現場で活躍する様々な機器にも使われていて、人々の安全・安心な暮らしに貢献しています。また、省エネルギーや環境負荷低減に貢献する環境配慮型製品も数多く提供し、エネルギーマネジメントメーカーとして持続可能な社会の発展に寄与しています。

## 社会インフラ・ビジネスで！

エレベータ  
緊急対策自販機  
複合機 (コピー・ファクス)  
携帯アンテナ基地局  
蓄電システム  
マウス  
パソコン

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 蓄電システム
- 超薄型センサービーコン
- DC-DC パワーモジュール
- EMI 対策部品
- トナー など

## 医療・福祉の現場で！

ベッドサイドモニタ  
輸液ポンプ  
電動車いす

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池 など

## ご家庭で！

煙探知機  
LED 照明  
自動車  
コードレス電話  
玩具  
スマートフォン  
クレジットカード  
腕時計  
テレビのリモコン

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 積層パワーインダクタ
- 液晶ディスプレイ用信号処理モジュール など

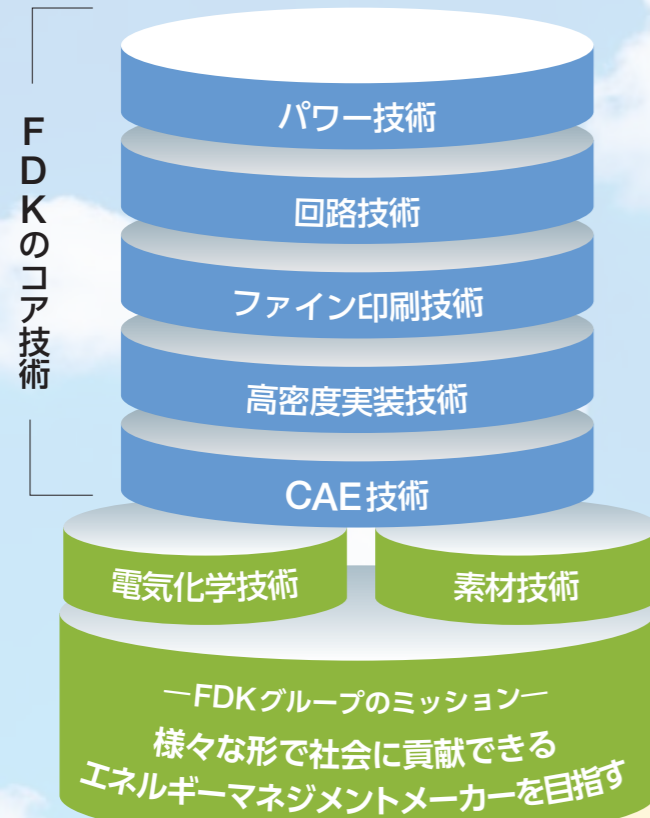
# 事業を通じたCSRによる

FDKグループは、CSR基本方針に基づく重点課題に継続して取り組むことによりグローバル企業として責任ある経営を推進し、これまで培ってきたコア技術をもとにした電池、電子製品、蓄電システム製品の開発・供給を通じて、社会課題の解決に貢献するFDKグループならではの価値をステークホルダーの皆様へ提供してまいります。

# 価値提供

ステークホルダーにもたらす価値

## FDKのコア技術と強み



### すべては「素材」から FDKのテクノロジー

「電気化学技術」「素材技術」は、FDKテクノロジーの原点です。このテクノロジーは、FDKの電池と電子製品の核となる「コア技術」を生み出し、さまざまな機器で活躍しています。「電気を創る（高効率エネルギー変換）、蓄える（蓄電）、賢く使う（省エネ）」時代に求められる高効率で安全な製品の提供のため「様々な形で貢献できるエネルギー管理メーカー」を目指してまいります。電池、電子製品の既存事業と、それぞれの保有技術のシナジーから生み出される蓄電システム製品などの「新開発事業」を新たなビジネスドメインに加え、それぞれのドメインを事業環境の変化に応じて柔軟に組み合わせることで、価値ある製品をご提供してまいります。

## FDKの事業



すべての事業活動において地球と社会の持続可能な発展に貢献

重点課題への対応を通じてグローバル企業として責任ある経営を推進

安心の提供

お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給

環境への責任

3E（環境保全・省エネルギー・経済発展）による持続可能な循環型社会への貢献

\* FDKグループは「お客様」「社員」「お取引先」「株主・投資家」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。

### 事業環境

CSR意識の高まり	市場成熟と中国企業の台頭による市場構造変化
製品品質・経営品質の重要性	省エネ政策推進に向けた法制化
資源価格の急変	車載テレマティクス機器の需要拡大
海外生産拠点での労務費高騰	

### 社会環境

社会インフラにおける安心安全ニーズの広がり
再生可能エネルギーの利用拡大と電力事業法改正による国内電力インフラの変化
世界人口の増加、国内人口減少および少子高齢化などの人口動態の変化

## CSR活動における7つの重点課題

- 1 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給 ▶ P11
- 2 地球環境保全への対応 ▶ P13
- 3 多様性の受容 ▶ P15
- 4 地球と社会に貢献する人材の育成 ▶ P16
- 5 ステークホルダーとの対話と協力 ▶ P17
- 6 法の遵守 ▶ P18
- 7 コーポレート・ガバナンスの強化 ▶ P19



# FDKの「ニッケル水素電池」

FDKでは手軽に購入できて利便性の高い使いきりの電池であるアルカリ乾電池とともに、充電して繰り返し使えるニッケル水素電池を製造しています。

ニッケル水素電池は同じ充電電池である鉛蓄電池、ニカド電池、リチウムイオン電池と比べて環境負荷面や安全性に優れており、より環境に優しく安心してお使いいただける電池です。

(使用済み小型ニッケル水素電池はリサイクルされ、貴重なニッケルやコバルト、希土類などを分離、精製し、再利用されています。)

FDK製のニッケル水素電池(小型)は世界中のお客様に使われていて、世界No.1\*<sup>1</sup>の生産シェアを誇っています。

スタンダードタイプでは、自己放電しにくく、フル充電しておけば1年後で約90%、10年後でも約70%の容量が残っており、長期間保管していてもすぐに使えます。

マイナス20℃の低温でも使用でき冬のアウトドアシーンで安心して使え、カメラのストロボなどの大電流機器用の高容量タイプや、リモコン・時計などのよく使う機器に適したスタンダードタイプなど、お客様のニーズに合わせた製品を提供しています。

またニッケル水素電池の繰り返し使えてリサイクル性も優れているという特長だけでなく、その製造拠点であるFDK高崎工場では、使用する希少金属量の低減や製造工程から発生するニッケルなどの回収材料の再資源化、さらには太陽光で発電した電気を工場出荷時の初期充電の一部に利用するなど、省資源、省エネルギー、環境負荷低減の取り組みに効果を上げています。

\* 1:2015年実績。富士経済発行「2016 電池関連市場実態総調査 上巻」より



## 太陽とツナガル電池

高崎工場で生産するニッケル水素電池は、繰り返し使えるだけでなく、太陽光で発電した電気を工場出荷時の初期充電の一部に利用しています。

まさに「**太陽が詰まった電池**」です。

高崎工場 全景



屋上設置の太陽光パネル

充電



高崎工場での太陽光パネルによる発電量およびCO<sub>2</sub>削減量(2016年1月~12月)

発電量

146.85MWh

CO<sub>2</sub>削減量

83.7t

\* 2:富士通グループでのCO<sub>2</sub>排出係数:0.570(t-CO<sub>2</sub>/MWh)より算出。

# 中期経営計画 1618

さらなるFDKグループの経営体質強化と企業価値の向上を図るため、2016年度を初年度とする3ヶ年の中期経営計画を策定しました。

お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給により、3E社会(環境保全・省エネルギー・経済発展)の実現に寄与し、「様々な形で社会に貢献できるエネルギーマネジメントメーカー」を目指してまいります。

## 中期経営計画 骨子

粉体を中心とした材料開発に立ち返った基盤事業の強化を図り、電池・電子事業のシナジーを活かした製品の提供を通じて「エネルギーマネジメントメーカー」としての成長を実現させる。

### 事業戦略 [差別化開発と成長市場への拡販]

#### 1 基盤事業

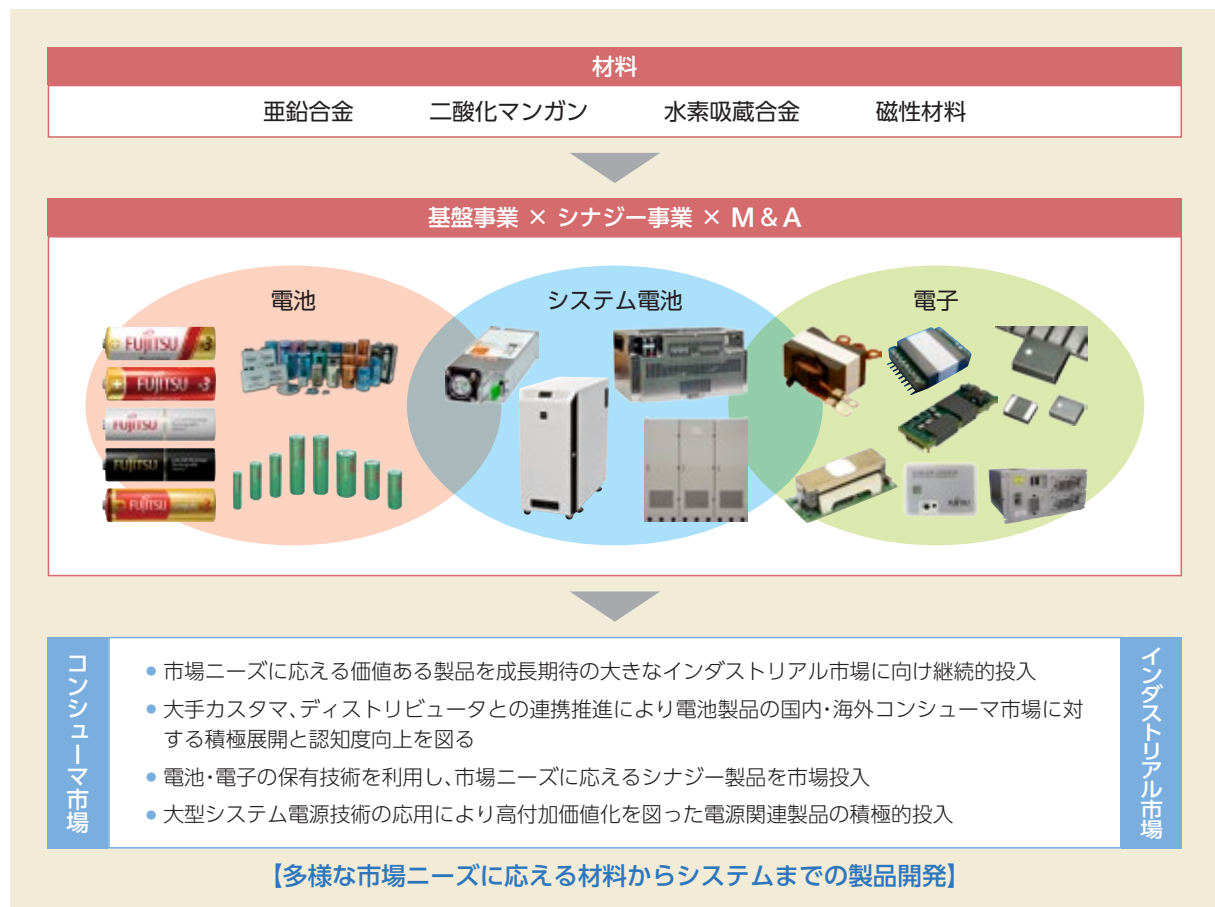
- 次世代に向けた新材料開発
- インダストリアル市場の成長分野へ積極展開
- コンシューマ市場での販売強化

#### 2 シナジー事業

- シナジー製品の市場投入
- エネルギー関連ソリューション製品の市場展開

#### 3 M & A

- アライアンスによる事業強化



### 企業体質の強化

- 1 品質強化への挑戦
- 2 コスト削減に向けた取り組み
- 3 CSRの推進
- 4 組織改革と人材育成
- 5 情報活用基盤の整備と拡充

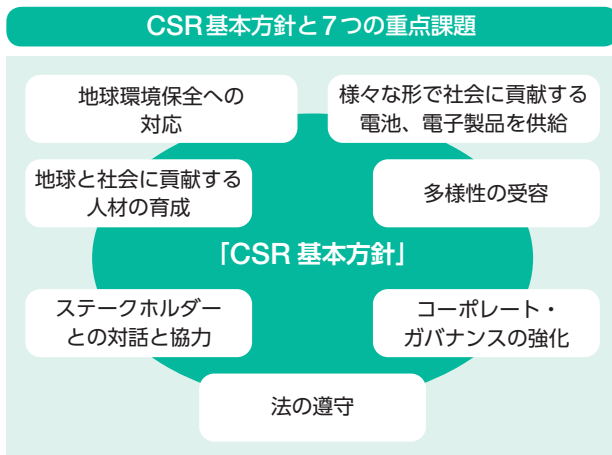
# CSR マネジメント

## FDKグループCSR基本方針

- FDKグループのCSR基本方針は、FDKグループで働くすべての人が積極的に実践すべき内容を示した「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU Way」を実践することです。
- 我々は、「お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給により3E社会（環境保全・省エネルギー・経済発展）の実現に寄与し、様々な形で社会に貢献できるエネルギーマネジメントメーカーを目指す。」という方針のもと、すべての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえ「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」を実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献してまいります。
- CSRの実践にあたっては、7つの課題に重点的に取り組みます。
- これらの課題への対応を通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進します。

## CSR基本方針に基づく重点課題

CSRの実践にあたっては、CSR基本方針に基づく次の7つの課題に重点的に取り組んでいます。



## CSR活動推進体制

FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」の浸透、定着を一層推進するため、FDKではCSR推進委員会を設置しています。

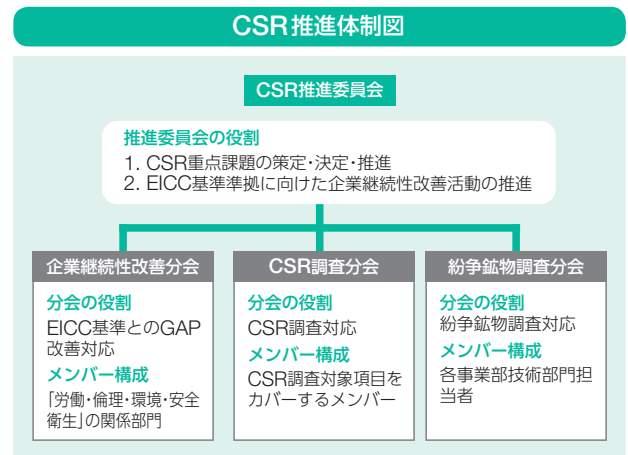
CSR推進委員会は、FDKグループの横断的なCSRマネジメント推進のため取締役（コーポレート担当）を委員長、CSR・広報IR室を事務局とし、7つの重点課題の取り組み状況の確認、CSRに関連した情報や取り組みの確認などにより持続可能な社会とビジネスの在り方などについて定期的なレビューを行なっています。

国際的なCSR規範であるEICC（電子業界行動規範：Electronic Industry Citizenship Coalition）への準拠推進やお客様からのCSRに関する調査・要請への適確な対応、紛争鉱物\*の適切なマネジメントを目的とした3つの分会組織を設け活動しています。

またFDKグループのCSR基本方針、重点課題・施策、活動実績等を掲載し、方針、状況、課題の社内共有を目的とした社内ホームページを設けています。

\*紛争鉱物：その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長している、あるいは、人権侵害、労働問題などと密接に関連している鉱物。

2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」においては、コンゴ民主共和国および隣接国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、その他国務省が判断する鉱物を紛争鉱物として、米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合の米国証券取引委員会（SEC）への報告義務などが定められた。



## CSRに配慮した調達活動

FDKグループは、「FDKグループCSR基本方針」、「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」に基づき、お取引先とともに、CSRに配慮した調達活動を推進していくために「CSR調達指針」をまとめました。

本指針を遵守した調達活動をするとともに、サプライチェーンを構成するお取引先にも同様に本指針の遵守をお願いしています。



# 7つの重点課題

FDKグループは、7つの重要課題に沿ったCSR活動を推進しています。この重点課題は、FDKグループの事業を通じての社会貢献と、ISO26000やEICCの中核課題や重点領域において求められる事項に積極的に取り組み、グローバル企業として責任ある経営を推進することを目的とし、重点課題として次のとおり設定しています。

重点課題	あるべき姿	重点施策	2016年度の取り組み	ISO 26000	参照
<b>1 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給</b> 様々な形で社会に貢献できるエネルギー・マネジメントメーカーを目指し、お客様にご満足いただける電池、電子製品を開発し供給する。	保有技術を活かした市場ニーズに応える製品開発と供給を継続的に進め、環境変化に柔軟に対応することで、お客様に満足いただける信頼が置けるエネルギー・マネジメントメーカーとして認知される。	<製品> 差別化技術から生み出した新たな付加価値を提供する製品の開発促進。  <取り組み> 素材を活かした製品を提供し続けることで、未来を育む企業としての価値を向上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェライト材料、電池材料技術を活かし、安心の提供、環境への責任を実現する電池製品3件、電子製品4件の新製品開発プレスリリースを実施。</li> <li>継続的な製品供給のためのBCPの策定とBCMを国内全事業所に開始。</li> </ul>		P11 P12
<b>2 地球環境保全への対応</b> 高性能な電池、電子製品の供給によりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの調達・生産・供給において環境負荷を低減する。	環境問題を常に意識し、グリーンエコノミー時代の実現に向けての製品提供により社会全体の環境負荷・環境リスク低減に積極的に取り組んでいる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化防止のため工場・事務所での省エネルギー対策や物流改善の推進などに継続的に取り組んでいる。</li> <li>3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動により環境負荷を低減している。</li> </ul>	全グループ生産拠点での環境に配慮した生産環境から環境配慮製品を製造。  <お客様の環境負荷低減> ライフサイクルを考慮した環境配慮製品開発の推進(高効率な製品、環境負荷の少ない材料を使用した製品)。  <自らの環境負荷低減> <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー消費CO<sub>2</sub>排出量の削減。</li> <li>廃棄物発生量の削減。</li> <li>化学物質排出量の削減。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分電盤・冷却塔などの更新による作業環境整備を実施。</li> <li>生産設備更新や工程IT化による工程の合理化を実施。</li> <li>お客様の環境負荷低減 各生産拠点で省エネルギーや省資源など環境に配慮した製品の開発を推進。</li> <li>自らの環境負荷低減 機器、照明のLED化など設備の更新を実施。</li> <li>有価物分別徹底、歩留まり向上などの施策を実施。</li> <li>歩留まり向上、取扱量の管理向上の施策を実施。</li> </ul>		P13 P14
<b>3 多様性の受容</b> 企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、年齢、障がいの有無、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かす。	FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別*を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している。  *国籍、人種、性別、宗教、信条、社会的身分、出身地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシャルハラスメント、精神的もしくは肉体的な暴力などによる人権侵害	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人に働きやすい職場環境の整備。</li> <li>人事・処遇制度の改善。</li> <li>研修、セミナーによる啓発活動の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業所での女性活躍セミナーの開催や女性活躍新聞の発行を実施。</li> <li>障がい者採用実績2名。</li> <li>幹部社員向けマネジメント研修にてダイバーシティ、組織活性化に関する集合研修を実施。</li> <li>階層別研修にて外部講師を招いた人権セミナーを実施。</li> </ul>		P15
<b>4 地球と社会に貢献する人材の育成</b> グローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。	長期的視点に立ち、ビジネスを通じてグローバルに活躍できる人材を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスを通じて地域・社会に貢献する人材の育成システム充実。</li> <li>地域・社会とのつながりによるコミュニケーション力の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FDKグループ教育制度改革計画を策定、実施。</li> <li>次世代ビジネスリーダー育成研修、専門能力研修を実施。</li> <li>外部の育成プログラムとの連携を強化、受講者を2名派遣。</li> <li>外国人採用実績1名。</li> <li>貿易取引研修(マネジメント研修)、語学研修、TOEIC試験を実施。</li> </ul>		P16
<b>5 ステークホルダーとの対話と協力</b> 良い企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。	公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に進めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応。</li> <li>CSR報告書の発行。</li> <li>お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示。</li> <li>株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討。</li> <li>取引先:双方向コミュニケーションの充実。</li> <li>従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話。</li> <li>地域社会:地域住民への社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室等)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR報告書初回版の完成に向けた各種検討、準備の実施。</li> <li>お客様、株主様、投資家様からの調査、問い合わせ、取材などへの適正な対応や、株主総会やホームページ、各種メディア、展示会などを通じての情報開示、対話の実行に努めた。</li> <li>協会による労使の対話、課題の共有を継続的に実施。</li> <li>手作り乾電池教室などFDKグループの事業の特徴を活かした地域社会への貢献活動60件(国内全事業所合計)を実施。</li> </ul>		P17
<b>6 法の遵守</b> 法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する。	経営者および全従業員が常に法令および社会的規範を遵守した行動をし、また新規、改正情報も迅速に認識、対応できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業継続性改善活動拡充(評価・改善、教育等)。</li> <li>コンプライアンス関連規定の整備。</li> <li>教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む)。</li> <li>モニタリング強化。</li> <li>新規、改正法令情報の的確な取得と反映。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EICCとのGAP改善活動計画を策定、実施。サプライチェーンにおけるCSR指針の遵守要請とCSR調査アンケートを実施。</li> <li>各種コンプライアンス規定の制定、改定を実施。</li> <li>輸出管理、下請法講習会を実施。</li> <li>情報セキュリティ自己チェックを実施。</li> <li>社外からの通報受付窓口を開設。</li> <li>法令改正などのコンプライアンス情報をインターネットで「法務ニュース」として適時発信、周知。</li> </ul>		P18
<b>7 コーポレート・ガバナンスの強化</b> 基本方針の実現に向け、経営の透明性や監督機能の向上を図り、コーポレート・ガバナンスを強化する。	経営者はコーポレート・ガバナンスの本質をよく理解し、必要に応じた経営体制の見直し、組織の整備等を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>取締役会の監督機能が十分であり、監督と業務執行が分離され、的確な意思決定が行われる機関設計の検討。</li> <li>取締役会の実効性の維持、向上を目的とした取締役会の評価(自己評価と外部機関による検証、継続的改善)およびトレーニングの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>監査等委員会設置会社へ移行。</li> <li>取締役トレーニングを年間3回実施。取締役会の実効性評価をアンケート型に加えインタビュー型で実施。</li> <li>監査等委員会室を設置(2017年4月)。</li> </ul>		P19 P20

# 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給

FDKグループは、保有技術を活かした市場ニーズに応える電池、電子製品の開発と供給を継続的に行ない、また環境変化に柔軟に対応することで、お客様にご満足いただけ、信頼を置いていただけるエネルギーマネジメントメーカーとして認知されるよう、活動を推進しています。

## FDKグループの取り組み

環境法や環境上の規範を遵守し、地球にやさしい素材を活かした電池、電子製品を提供し続けることで、未来を育む企業としての価値の向上を進めています。その一環として、これまで

の経験から蓄積されてきた差別化技術を用い、そこから生み出される新たな付加価値が提供できる製品の開発に取り組んでいます。

## 特色のある差別化技術がもたらす「安心の提供」、「環境への責任」

FDKは電池と電子製品の技術を併せ持つ世界的にも稀有な企業グループです。

そうした特色が活かされた差別化技術は、一例として電池、電子製品でお互いの長所を融合した技術としてシステム電池技術を生み出しました。

お客様や市場が求める地球環境に即した製品を常に供給し続けることを心掛け、製品開発に取り組んでいます。

また、FDKの製品をより身近に感じていただくために、各種展示会に積極的に出展を行なっています。

### 2016年度にプレスリリースした主な開発製品

#### ● 業界最高水準の低コアロスを実現させたフェライト材料「6H60T」



半導体製造装置などの産業機器用電源の消費電力の低減に貢献します！

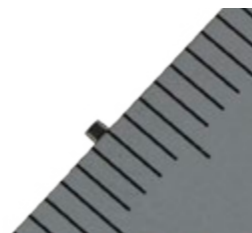


\* コアロス: 電源トランスの磁心内でのエネルギーが熱となって奪われること

#### ● 業界最小1005サイズで低損失、高い重畳特性を実現させた積層パワーインダクタ



スマートフォン、ウェアラブル機器などモバイル機器の消費電力の低減、小型・軽量化に貢献します！



\* 重畳特性: 電流を加えた時の特性値の変動。一般的に形状が小さいほど重畳特性が低下する(流せる電流が少ない)。

#### ● 「センサーロガー」に長時間駆動可能な電池交換タイプを開発



人やモノ、周囲環境の情報をインターネットにつなげて収集し、作業中や移動中の状態を把握。要介護者の方の見守りや工事現場の作業環境管理など、人々の安心・安全に貢献します！



#### ● 超薄型センサービーコンとメディアータロボットとの連携



センサービーコンからの情報をもとに、ロボットがお客様一人ひとりに合ったおすすめの商品を案内します！



#### ● 大容量ニッケル水素蓄電池「メガトワイセル」を開発！



再生可能エネルギーの電力貯蔵や災害発生時の停電対策、非常用電源用途に力を発揮！



メガトワイセル

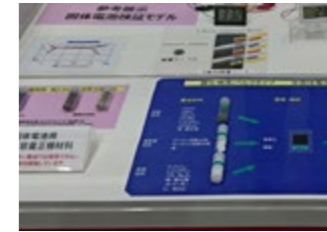
水溶性電解液や難燃性樹脂材の採用により長期間安全に使用可能！

再資源化率が高いニッケル水素電池を使用し、溶接で固定しない構造のため、リサイクル性に優れた環境にやさしい蓄電池です！

#### ● 高エネルギー密度を有する全固体リチウムイオン電池用正極材料を開発！



材料がすべて固体のため液漏れがなく、主に可燃性の有機系材料を使用している既存のリチウムイオン電池と比較し、高い安全性を有する全固体電池の開発を進めています。



IoT (Internet of Things)、ウェアラブル、モバイルなどの機器の小型化に貢献します！

#### ● 富士通アルカリ乾電池「プレミアム・ハイパワー・ロングライフ」がさらに性能アップ！



漏液防止性能がさらに向上し、大切な機器に安心してお使いいただけます。長期保存後の性能もアップし、いざという時のための備蓄電池にも最適です。また「プレミアム」は抗菌ラベルを採用しているため医療機器や玩具などにも安心してお使いいただけます！



あらゆる機器に対応する「新・プレミアム」

大・中電流機器に最適な「新・ハイパワー」

中・小電流機器に最適な「新・ロングライフ」

#### ● 世界最小クラスDC-DCパワーモジュールを開発、サンプル出荷開始！



1/4-Brickサイズの400W出力クラスの性能を約半分の面積の1/8-Brickサイズで実現し、産業機器の小型化や消費電力の低減に貢献します！



FPED48T01238NA

FPED48T01238NA-H

## 継続的な製品供給のための取り組み (BCPからBCMへ)

FDKグループは、BCPの策定と継続的な改善を行なっています。

【第1ステップ(2015年9月~12月)】モデル事業所を選定し、株式会社富士通総研によるコンサルティングを活用してBCPを策定。

【第2ステップ(2016年1月~7月)】モデル事業所での成果をもとにBCP策定を国内全事業所へ水平展開。

【第3ステップ(2016年7月~)】BCPをもとに、全事業所にてBCMを開始。必要な対策、進捗評価、レビューを継続的、定期的実施。海外事業所への展開を推進。

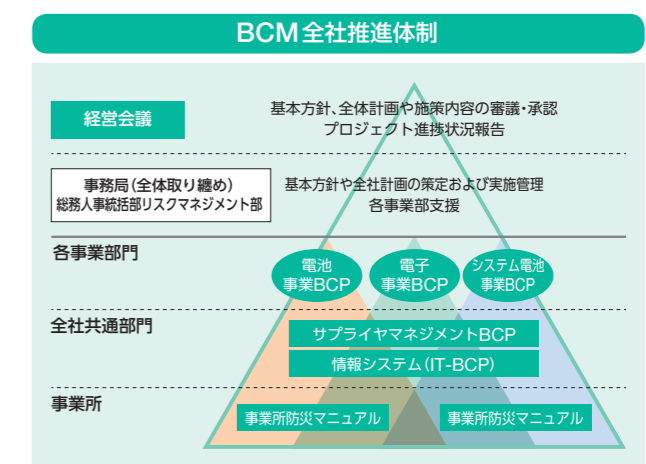
様々なリスク発生時において早期復旧を行ない、お客様への製品供給が途切れることのないようBCMを実行しています。

\* BCP: Business Continuity Plan 「事業継続計画」

\* BCM: Business Continuity Management 「事業継続マネジメント」

## 今後に向けて

FDKグループは、FDKの技術開発統括部が全社の研究開発活動を統括し、将来の市場環境と技術動向を見据えた新製品・新技術の開発を進めています。また、産学や海外および富士通グループの研究機関などとの連携により先端技術の導入を効率的に進め、技術開発スピードを高めてまいります。



# 地球環境保全への対応

「FDKグループは自然を愛します かぎりある地球のために」のスローガンのもと、FDKグループでは、美しい地球環境が次の世代へと受け継がれるよう、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置付けており、事業の独自性を反映させた環境経営を推進しています。

## FDKグループ環境憲章

FDKグループは、富士通グループの一員として企業の事業活動に伴う環境保全への取り組みについて、各国、地域の法規制対応や、温室効果ガス削減、廃棄物削減、化学物質管理の徹底のみならず、提供する製品を通しての環境負荷低減等、地球規模の視点で主体的に持続可能な循環社会実現に向けて行動

しなければならないと認識しています。国際規格ISO14001の適用範囲にかかわらず、全社的に、より確かな環境経営を推進するため、以下の「FDKグループ環境憲章」を制定しています。

### FDKグループ環境憲章

#### ● スローガン

FDKグループは自然を愛します かぎりある地球のために

#### ● 理念

FDKグループは、環境保全への取り組みを経営の重点課題に位置付け、お客様起点に立ち、お客様にご満足いただける電池、電子製品を開発、供給して、環境保全・省エネルギー・経済発展の3E(Environment・Energy・Economy)による持続可能な循環型社会に向けて貢献します。

また、環境法や環境上の規範を遵守した公正な企業活動を通じて、社会的責任を果たします。

さらに、かけがえのない豊かな自然・美しい地球環境を次世代に伝えていくため、地域社会とのコミュニケーションはもとより、従業員一人ひとりの自他非分離の精神による環境保全活動への取り組みを継続します。

\*本憲章は、国際規格ISO14001の適用範囲にかかわらず、国内外の拠点・関係会社に適用する。

#### ● 行動指針

1. 事業活動が地球にもたらす環境への負荷を把握し、製品のライフサイクルを通じてこれらの負荷を低減する。
2. 有害物質の排除、製品使用時の省エネルギーや長寿命化など環境性能の向上による環境配慮製品の開発を拡充する。
3. 地球温暖化防止のため工場や事務所での省エネルギー対策や物流改善の推進などに取り組む。
4. 3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動により環境負荷を低減する。
5. 製品に使用される原材料、部品、梱包材などについてグリーン調達を推進する。
6. 環境法令の遵守、公害防止などのリスクマネジメントの強化を継続する。
7. 地域社会とのコミュニケーションを深め環境保全への取り組みに貢献する。

## FDKグループ第8期環境行動計画(2016年度～2018年度)

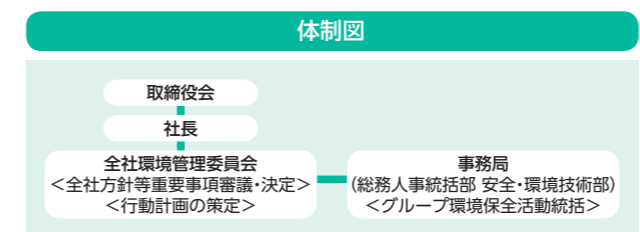
2016年度から2018年度までの3ヶ年については、新たな環境活動の計画である「FDKグループ第8期環境行動計画」を策定し、FDKグループ各社に目標展開をしています。

これらの方針・目標などを通じて、全事業領域にわたり計画的かつ継続的に活動を展開し、自社の環境負荷低減に努めるとともに、お客様・社会の環境負荷低減に貢献してまいります。

第8期環境行動計画	
項目	行動計画
環境配慮設計	エネルギー効率改善(省エネルギー)に寄与する電池・電子製品を年1件以上開発する。 資源効率改善(省資源)に寄与する電池・電子製品を年1件以上開発する。
温室効果ガス削減	2018年度末までにエネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量を2013年度比14%削減する。
エネルギー効率	エネルギー消費原単位を年平均1%改善する。
化学物質削減	2018年度末までにPRTR対象物質排出量原単位を2015年度比3%改善する。
廃棄物削減	2018年度末までに廃棄物発生量原単位を2015年度比3%改善する。
地域環境・社会貢献	地域の環境貢献・社会貢献活動の取り組みを年2件以上実施する。

## FDKグループ環境管理体制

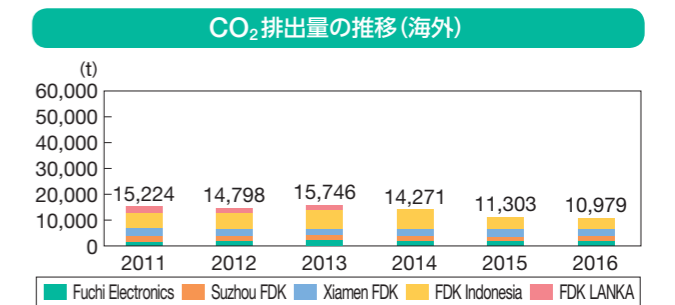
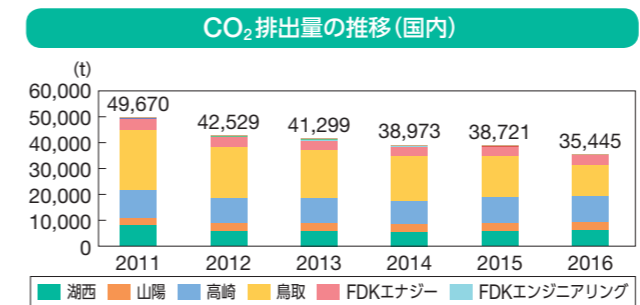
FDKグループの環境管理は、以下の体制で活動を推進しています。社長を委員長とした全社環境管理委員会にて、FDKグループ環境活動の方向性を審議・決定します。



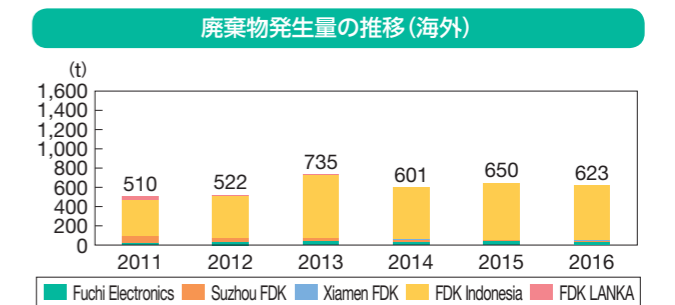
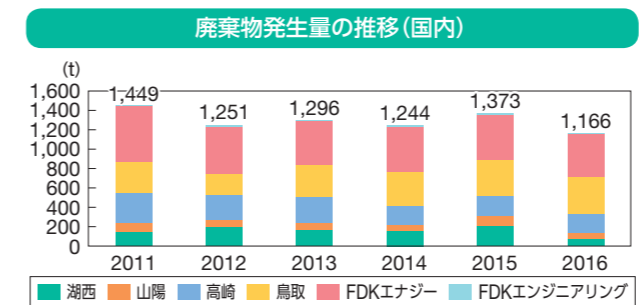
## 環境パフォーマンス

\* FDK LANKAは、事業譲渡により2014年度以降の集計対象から除外しています。

### CO<sub>2</sub>排出量の推移(国内、海外) 2011年度～2016年度

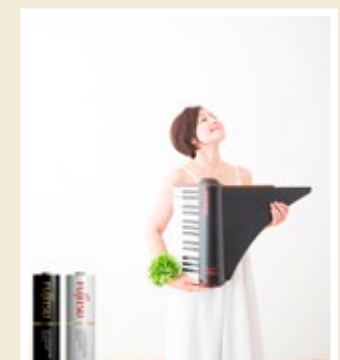


### 廃棄物発生量の推移(国内・海外) 2011年度～2016年度



## TOPICS ～FUJITSU 充電電池イメージサウンドについて～

FDKグループは、環境活動を積極的に推進しています。電池プロモーションの一つとして、「Save The Earth～電池を通して地球のことを考える～」というコンセプトメッセージをグローバルに向けて発信しています。その過程で世界的に希少なクラビオーラの奏者でピアニストでもある折重由美子氏に楽曲の提供を依頼し、FUJITSU 充電電池のイメージサウンドとして「風の贈り物～Save The Earth～」が完成しました。営業活動・SNSでの発信・拡散や折重由美子氏の地球環境重視のエココンサートへのサポートなどを通し、このイメージサウンドを活用するとともに、環境保全を含めたさまざまな環境活動に真摯に取り組み、かけがえのない豊かな自然・美しい地球環境を次世代に伝える活動を行なってまいります。



## 多様性の受容(ダイバーシティの推進)

FDKグループでは、国籍、性別、年齢の違いや障がいの有無などにかかわらず多様な人材を受け入れ個人を尊重し合うことで、社員一人ひとりと組織がともに成長したいと考えており、さまざまな価値観や働き方を取り入れ、企業価値を高める「経営戦略」として、ダイバーシティに取り組んでいます。

### ダイバーシティ推進の体制

2014年度より女性社員の働きやすい環境整備を進めてきましたが、男女にかかわらず個の成長とそれによる新しい価値の創造を目指し、2016年度より社長直下の組織として『女性活躍支援室』を新設しました。

2017年度からは「ダイバーシティ推進室」へ改称し、「多様な人材の活躍支援」と「多様な働き方の実現」の2つを軸にしダイバーシティを推進してまいります。



### ダイバーシティの方針

ES(従業員満足度)調査で抽出された課題、社長と社員の座談会での意見、女性社員を対象にしたダイバーシティに関するアンケートの結果より、次の2点を掲げ推進しています。

#### ◆ 個人の成長・やりがいの向上

社員一人ひとりが、お互いを認め、自分ならではの付加価値を發揮し、組織に貢献する。

#### ◆ 企業の競争力強化・成長

多様な視点から自由闊達に議論することで、新たな智慧と技術を創造し続ける。

### ダイバーシティの取り組み

#### ● マイルストーン

**第1期 2014～2016年度 認知・理解**  
女性活躍支援プロジェクトの趣旨理解  
社員が活躍できる環境整備

**第2期 2016～2017年度 理解・実践**  
価値観の多様性が強みとなる企業  
多様な働き方と生産性向上

**第3期 2018年度～ 実践・ビジネス貢献**  
個人のやりがい・働きがいの向上

#### ● 第1期:2014～2016年度(認知・理解)

- 女性社員の活躍機会の拡大と支援を目的として『女性の活躍支援プロジェクト』を発足し、意識の向上や就業面の改善に取り組みました。
- 仕事、家庭、地域生活の調和がとれた生活の実現に向け、各拠点にて「男女共同参画」に加入しています。



湖西工場・FDKエナジー



山陽工場



鳥取工場

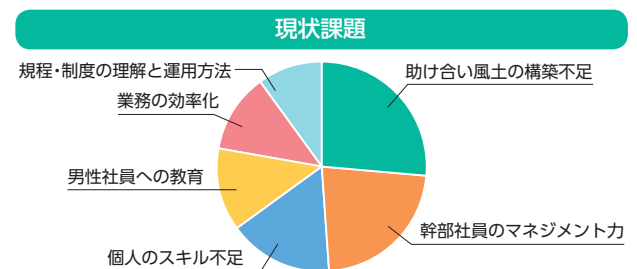
- 2015年8月に「女性活躍推進法」が制定され、FDKでは2021年度までに管理監督職の女性の人数を2015年度比で125%以上にする目標を掲げ、女性が安心して働き、活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

#### ● 第2期:2016～2017年度(理解・実践)

- 制約のある無しにかかわらず将来のキャリアを自律的に描き、幹部社員はその成長を期待・支援する、そのようなサイクルが回り続ける組織の進化に向けた取り組みを展開しています。

#### ● 第3期:2018年度～(実践・ビジネス貢献)

- 「ダイバーシティ&ワークライフバランス」を重要な経営戦略とし、働き方改革に取り組みます。



◆ 2010年4月より「次世代育成支援対策推進法」に基づき、社員が仕事と子育ての両立を図る上で必要となる雇用環境整備を進め、次世代認定『くるみんマーク』を取得しました。

◆ 2015年4月1日の法改正に伴ない、出産・育児に安心して専念できる仕組みづくりと男性社員向けワークライフセミナーを開催し、より高い水準での活動が認められ、2016年3月に次世代特例認定マーク『プラチナくるみんマーク』を取得しています。



# 地球と社会に貢献する人材の育成

FDKグループではグローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材の育成に取り組んでいます。

## 人材育成方針

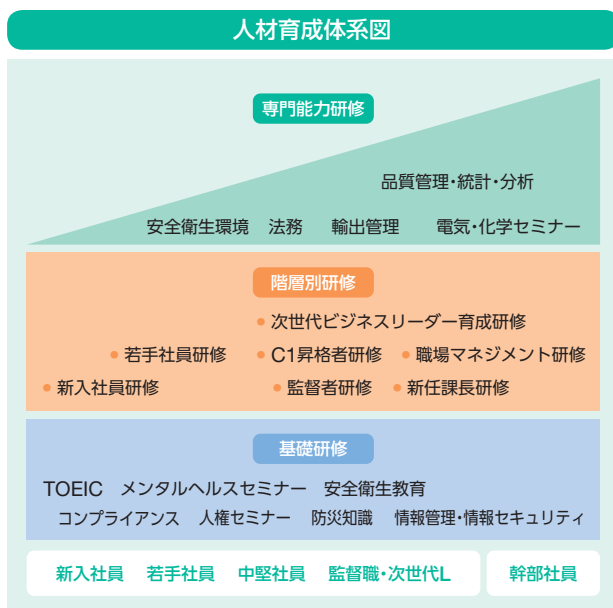
### ● 人材育成の4テーマ

FDKグループの人材育成については大きく4つのテーマに分けて考え、それぞれのテーマに沿った教育に取り組んでいます。

<b>階層別研修(全体の底上)</b> 若手層からシニア層まで世代や立場にフィットした階層別教育の充実と連携の強化	<b>グローバルビジネス・次世代リーダーの育成</b> 高度専門教育の充実・プロフェッショナル人材の育成
<b>多様な“個”が活躍する風土の醸成</b> ダイバーシティ推進、キャリア支援等を通じて個々の人材サポート、モチベーションの向上	<b>プロフェッショナル化の推進</b> 長期的視点に基づくグローバルに活躍できるビジネスリーダーの育成

## 人材育成体系

全社員が共有すべき知識や技能および基本行動に関する「基礎研修」、新入社員から幹部社員までそれぞれの立場・役割に応じた「階層別研修」、そして職種毎の専門性を高める「専門能力研修」の3区分に応じた教育を実施しています。



次年度に向けては中堅層、幹部社員層の教育のさらなる充実を図ってまいります。

## 取り組み事例

### ● 組織力強化

職場マネジメントの強化・向上を図り、誰もが働きやすい職場づくりを進めるため全事業所の幹部社員に対し、「マネジメント研修」を実施しました。

### ● 専門能力強化

静岡大学工学部・電気電子工学コースの教授をお招きし、「パワーエレクトロニクスセミナー」を開催しました。社内保有のパワーエレクトロニクス技術のさらなるブラッシュアップと技術イノベーションに果敢に挑戦する技術者集団の創造を図り、「様々な形で社会貢献できる、エネルギー・マネジメントメーカー」を目指します。



### ● 次世代ビジネスリーダー育成

FDKでは、社会との関わりを見据えた広い視野を持つ「主体的で自立した個」を育成し、社員の意識改革、思考改革を社内展開、普及させていくことで、環境の変化を機敏に察知し、変化に対応できる強い組織の実現を目的とした次世代ビジネスリーダー育成のための研修を開催しています。この研修は、漏れのない発想・新たな想像・気づく力を向上させるため、様々な視点で物事を見て考えることを主体にしています。座学に始まり、実践を通じて「本質を考えるクセ」を身につけ、さらにはその考え方を第三者(部下など)に教育することで企業力・組織力を強化し、また個々の「気づき、3現(現場、現物、現実)、知恵、創造」を磨くための非常に重要な研修です。



# ステークホルダーとの対話と協力

FDKグループは良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施することを方針としています。

公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に行なうことにより企業価値の向上に努めます。

## 地域社会への貢献活動

FDKグループでは、ステークホルダーとの対話機会の充実を図る取り組みの一つとして、地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでいます。

### 『フェスタFDK』

会社と労働組合との共催で、FDK湖西工場（静岡県湖西市）の一部を一般開放し、地域の方々や従業員家族など皆様に楽しんでいただくイベントを毎年継続的に行なっています。ステージ・野外イベント、手作り乾電池教室など、社会貢献活動の一環として様々な企画を実施しています。

また、開催の都度、来場者の方々へアンケートを実施し、企画内容の改善を図るとともに、会場施設のバリアフリー化や授乳室の設置など、地域社会との信頼を醸成することで、来場者数も過去5年で1.5倍に増加しました。



### FDKグループ各事業所での取り組み

FDKの事業の特徴を活かした小中学生に対する乾電池教室や出前環境授業、工場見学会、また地域と密着した清掃活動やイベントへの参画、募金・寄贈・献血活動など様々な活動をグループ会社の工場を含めた全事業所で行なっています。



浜名湖クリーン作戦への参加



花壇の手入れ活動  
(鳥取工場)



道の駅での清掃活動  
(鳥取工場)



群馬県環境賞環境功績賞受賞(高崎工場)



老人ホームでの  
清掃活動への参加  
(山陽工場)

## 法の遵守

FDKグループは、従業員一人ひとりの行動の基準となる「FDK企業行動指針」を2000年に定めています。この行動指針において、「法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する」という方針を明確に示し、消費者やお取引先の信頼を得られるように努めています。この行動指針をイントラネットに掲載するとともに、各職場に掲示して全従業員が常に確認できるようにすることで、個人の自覚と行動をうながしています。

### コンプライアンス関連規定の整備

FDKグループでは、コンプライアンスの徹底を目的として、2016年9月にコンプライアンス規程を制定しました。また、同規程のもと、2017年2月に、ビジネスに与える影響が特に大きい独占禁止法、贈収賄、反社会的勢力の分野について、より具体的な細則とガイドラインを制定しました。

### 教育の実施

FDKグループでは、新入社員、新任課長等を対象とした階層別研修において、社内規則や外為法、製造物責任法、独占禁止法、個人情報保護法などの業務に関係の深い法令について社内講師による解説を行ない、理解促進を図っています。この他にも、全従業員を対象とした、様々なコンプライアンス教育を実施しています。

輸出管理および下請取引の分野については、各事業所において、定期的に集合研修を行なっています。2016年度は、輸出関連法規の遵守を徹底するため、全従業員に受講を義務づけたe-learning「安全保障輸出管理違反防止に向けて」の実施、および実務者を対象とした「該非判定研修」を実施しました。



集合研修の様子

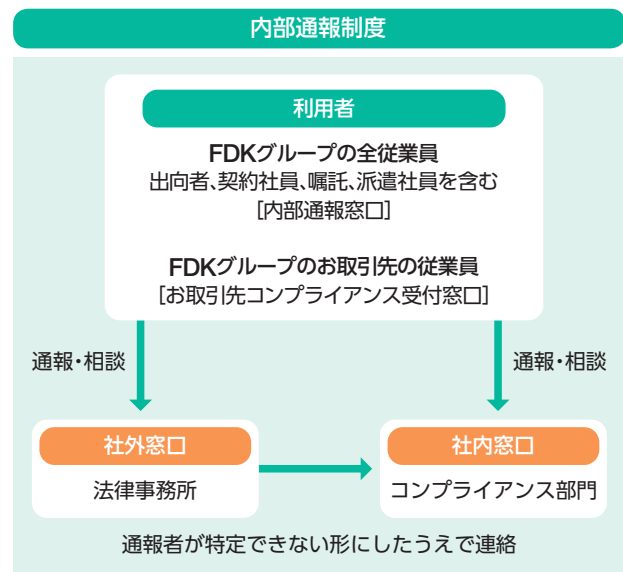
### 事業運営に関わる法規制の遵守

FDKグループの事業推進にあたり、様々な関連法規、基準などがあります。これらの遵守は当然、社会動向や学術面の最新情報なども踏まえ、倫理的な側面でもコンプライアンスの徹底を図っています。事業に関わる事項については、安全衛生委員会、環境管理委員会、含有化学物質管理委員会、輸出管理委員会、製品安全化推進委員会などの関連組織を設置し、事業運営、製品品質の両面で取り組んでいます。

### 内部通報制度

FDKでは、FDKグループ全従業員(出向者、契約社員、嘱託、派遣社員を含む)から社内ルール違反や法令違反行為に関する通報・相談を受け付ける「内部通報窓口」を2006年に設置しています。また、2016年9月には、「お取引先コンプライアンス受付窓口」を開設し、FDKグループと取引のあるお取引先からの通報を受け付けています。

「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」においては、「内部通報規程」によって通報者の秘密が確保されるとともに、通報を行なったことによるいかなる不利益も受け取ることが保証されています。通報に基づく調査の結果、問題が認められた場合は、すみやかに改善措置を講じています。



### 情報発信

FDKでは、イントラネットを利用して、社内ルールの説明、法令の改定情報、違反事例の紹介など、コンプライアンスに関する様々な情報を従業員に提供し、法令遵守に対する意識の向上に努めています。

# コーポレート・ガバナンスの強化

## コーポレート・ガバナンス

### ● 基本的な考え方

FDKグループは、コーポレート・ガバナンスを充実することが、企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、金融商品取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じて経営体制の見直し、組織の整備、必要な施策を実施しています。また、経営内容の迅速な情報開示に努めるとともにインターネットを通じて財務情報の提供を行なうなど幅広い情報開示を図り公正性と透明性を高めることにも努めています。なお、FDKは経営の監督と業務執行体制を分離した事業運営を図るため、執行役員制度を導入しており、その体制は取締役兼執行役員3名と執行役員8名で構成されています。

### ● 取締役会

FDKの取締役会は、取締役(監査等委員を除く)4名と監査等委員である取締役3名で構成されています。取締役会は原則毎月1回開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに

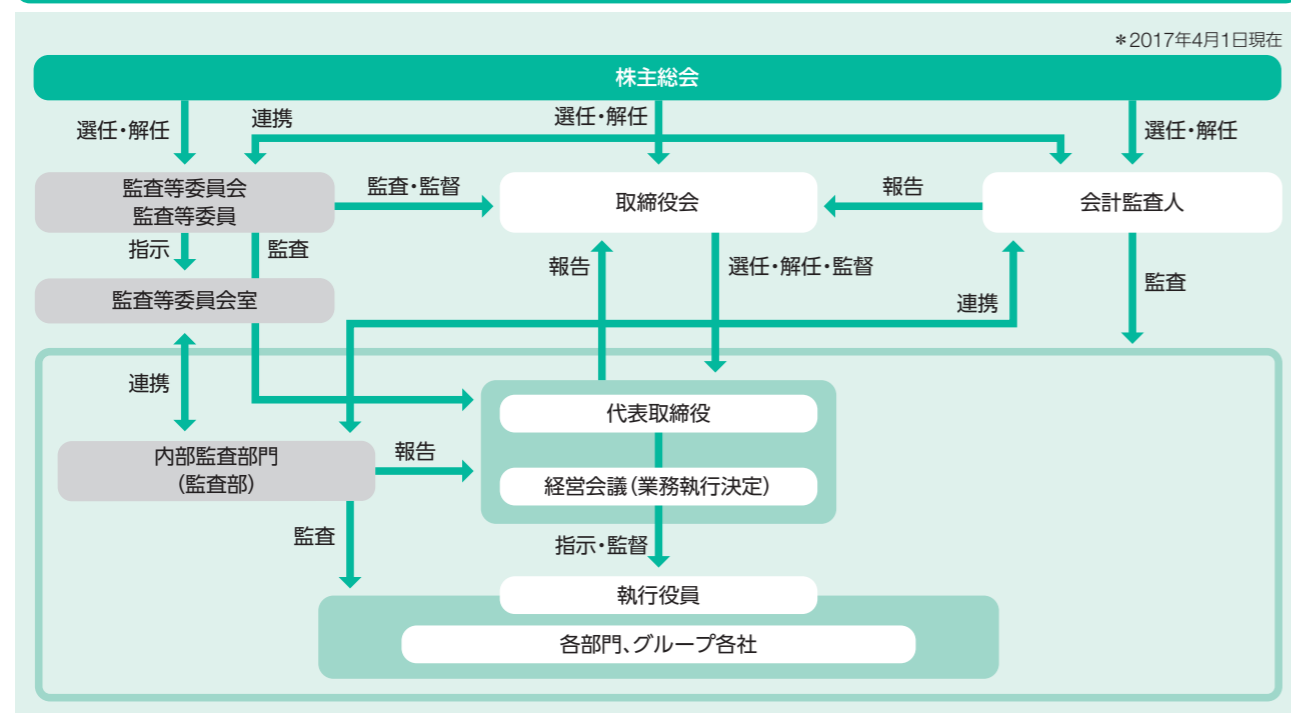
業績の進捗状況についても議論し対策等を検討しています。

### ● 監査等委員会

監査等委員会は、社外取締役2名を含む取締役3名の監査等委員で構成され、原則毎月1回と必要に応じて随時開催し、経営の適法性および妥当性の監督、監査を行なっています。また、各監査等委員は、取締役会に出席し、経営全般または個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行なうとともに、監査等委員会で立案した監査方針に従い、取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しています。

なお、監査等委員である社外取締役との円滑な情報共有を行なうことにより、質の高い監査・監督を行ない、ガバナンスの強化に貢献することを目的として、2017年4月1日に監査等委員会室を設置しました。監査等委員会、監査等委員会室、会計監査人および監査部とは、相互の情報交換・意見交換を行なうなど連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



## 内部統制

### ● 基本的な考え方

FDKグループは、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識のもと、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役に決議し、社

員、取引先、地域社会などのステークホルダーとの健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正、財務報告の信頼性を確保するとともに、関連法規、定款を遵守する経営を実現しています。

## 改正会社法およびコーポレートガバナンス・コードへの対応

FDKは、2015年の改正会社法の施行および金融商品取引所によるコーポレートガバナンス・コード策定を踏まえ、監査等委員会設置会社へ移行するとともに、2016年6月にコーポレート・ガバナンス報告書を開示しました。

2016年度では前年のガバナンス報告書における Explain 項目の改善および Comply 項目の充実および改正会社法への対応に取り組みました。

コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示

基本原則 5原則	原則30則	補充原則38則
1. 株主の権利・平等性の確保	7	9
2. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働	5	3
3. 適切な情報開示と透明性の確保	2	4
4. 取締役会等の責務	14	19
5. 株主との対話	2	3

上記全73項目の原則を実施するか、実施しない場合には、その理由を説明する「コンプライ・オア・エクスプレイン」(Comply or Explain)

- 2015年度状況  
73項目のうち、Comply 65項目 / Explain 8項目  
課題点(Explain項目): 社外取締役に係る項目 / 議決権の電子決済
- 2016年度状況  
73項目のうち、Comply 72項目 / Explain 1項目  
課題点(Explain項目): 議決権の電子決済

### ● 監査等委員会設置会社への移行

2015年5月に施行された改正会社法により、会社の機関設計として監査等委員会設置会社が新たに追加されました。FDKは取締役の監督機能強化と透明性の高い経営を実現するとともに、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを目的として、2016年6月28日に開催されました第87回定時株主総会の承認可決を経て監査等委員会設置会社へ移行しました。

### ● コーポレートガバナンス・コード「基本原則4:取締役会の責務」の充実・強化

①取締役トレーニング  
専門知識の更新および専門外知識の習得を目的として、取締役を対象としたトレーニングを年間3回実施し、取締役の知識、知見の向上に取り組みました。

②取締役会実効性評価  
従来のアンケートによる評価手法に加え、第三者機関によるインタビューを取り入れることで課題のさらなる深掘りを行ない、評価方法の充実により取締役会の監督機能強化に取り組みました。



取締役トレーニングの様子

監査等委員会設置会社へ移行



2017年度以降も毎年コーポレートガバナンス・コードに対する重点課題の抽出を実施し、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を図ってまいります。



# 環境パフォーマンスデータ

## ※ 省エネルギー・省資源製品の開発件数(2016年度)

省エネルギー製品の開発件数	20件
省資源製品の開発件数	4件

## ※ 事業所別パフォーマンスデータ(2016年度)

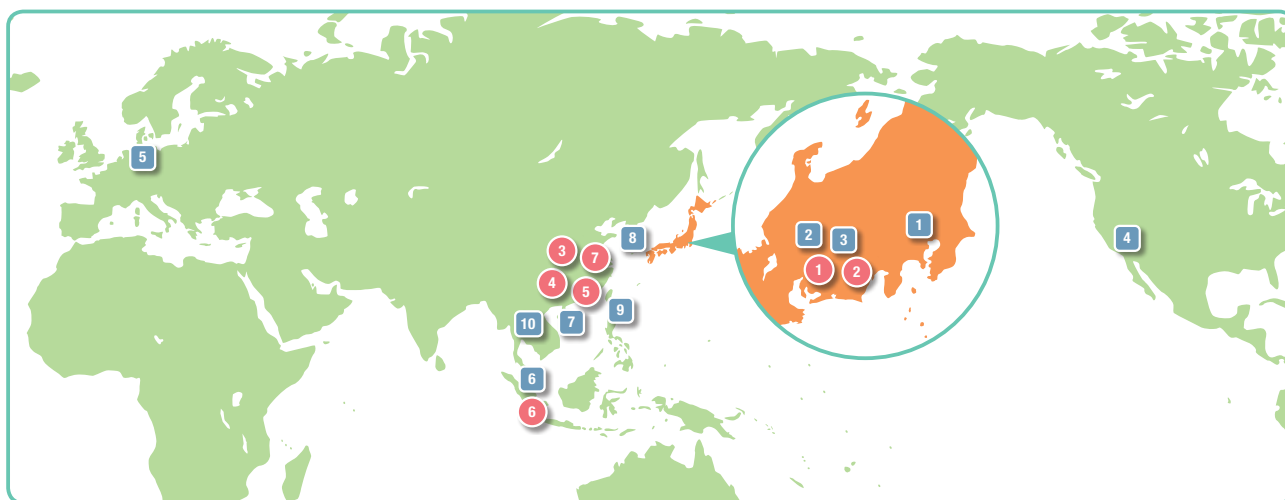
項目 (単位)	湖西工場	山陽工場	高崎工場	鳥取工場	FDKエナジー	FDK エンジニアリング
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	8,159	4,008	14,671	15,552	4,877	231
水使用量 (m <sup>3</sup> )	138,845	28,460	24,640	115,395	51,508	530
PRTR対象物質排出量 (kg)	8	2	92	189	—	—
SOx排出量 (kg)	0	—	—	0	—	—
NOx排出量 (kg)	186	—	—	6,093	—	—
ばいじん (kg)	—	—	—	—	—	—
排水量 (m <sup>3</sup> )	138,845	28,460	24,167	54,035	51,508	530
廃棄物 (トン)	72	65	195	388	437	8
地域、社会貢献 (件)	6	4	3	2	13	2

項目 (単位)	FDK エコテック	Suzhou FDK	Xiamen FDK	Fuchi Electronics	FDK Indonesia
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	24	2,698	3,560	2,708	5,732
水使用量 (m <sup>3</sup> )	—	9,170	19,554	10,814	27,187
PRTR対象物質排出量 (kg)	—	—	—	—	—
SOx排出量 (kg)	—	—	—	—	—
NOx排出量 (kg)	—	—	—	—	—
ばいじん (kg)	—	—	—	—	—
排水量 (m <sup>3</sup> )	—	9,170	19,554	10,814	27,187
廃棄物 (トン)	—	9	3	36	575
地域、社会貢献 (件)	2	—	2	2	—

\*「—」は、対象外または隔年で測定義務があるもので、当該年度の測定を行っていないものです。

\* 購入電力のCO<sub>2</sub>換算係数は、0.57t-CO<sub>2</sub>/MWhで算出

# グループ会社、概要



## ● グループ会社 (生産関連会社 7社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000's
1 FDK エナジー (株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津614 TEL:053-576-2111	EC98J2005	JQA-0459
2 (株)FDK エンジニアリング	〒431-1302 静岡県浜松市北区細江町広岡281 TEL:053-522-5280	EC98J2005	JQA-QMA15241
3 SUZHOU FDK CO., LTD.	43 Building Fengqiao Industrial Park 158-88 Huashan Road, Suzhou New District Jiangsu, China TEL: + 86-512-6661-9392	EMS 599587	ISO9001:FM79598 TS16949:253888
4 XIAMEN FDK CORPORATION	No. 16, Malong Road, Huoju Garden, Huoju Hi-Tech District, Xiamen, Fujian, China TEL: + 86-592-603-0576	00117E20324R3M/3502	ISO9001:00114Q20800R2M/3502 TS16949:CHN-17179/TS
5 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	No. 355, Section 2, Nankan Road, Rutsu Shan, Tao Yuan, Taiwan TEL: + 886-3-322-2124	4E9E001-10	ISO9001:2015/69024.2 TS16949:690257
6 PT FDK INDONESIA	Kawasan Industri MM2100, Blok MM-1 Jatiwangi Cikarang Barat, Bekasi 17520 Jawa Barat, Indonesia TEL: + 62-21-8998-2111	13/02329	13/02328
7 NANJING JINNING SANHUAN FDK CO., LTD.	No. 9, Xing Jian Road, Nanjing Economic & Technological Development Zone, Nanjing, Jiangsu, China TEL: + 86-25-8566-3620	00116E20485R4M/3200	No. 00115Q21565R1M/3200

\* NANJING JINNING SANHUAN FDK CO., LTD. は、持分法適用関連会社です。

## ● グループ会社 (販売会社等 10社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000's
1 FDK 販売 (株)	〒108-8212 東京都港区港南 1-6-41 (品川クリスタルスクエア) TEL:03-5715-7430	EC98J2005	—
2 FDK エコテック (株) (岐阜事業所)	〒503-0322 岐阜県海津市平田町土倉字江東 478 TEL:0584-66-4781	EC98J2005	—
3 FDK パートナーズ (株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津 2281 TEL:053-576-3121	EC98J2005	—
4 FDK AMERICA, INC.	1280 E. Arques Avenue, MS310, Sunnyvale, CA 94085, U.S.A. TEL: + 1-408-746-6815	—	—
5 FDK ELECTRONICS GMBH	Einsteinring 24, 85609 Aschheim/Munich, Germany TEL: + 49-89-3306680-0	—	91110693/2
6 FDK SINGAPORE PTE. LTD.	4, Leng Kee Road. #04-08 SiS Bldg., Singapore 159088, Singapore TEL: + 65-6472-2328	—	—
7 FDK HONG KONG LTD.	Suite 1607-1608A, 16/F., Tower 3, China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong TEL: + 852-2799-9773	—	—
8 FDK KOREA LTD.	11F, Kyobo Life Insurance Bldg., 1, Jong-ro, Jongno-Gu, Seoul 03154, Republic of Korea TEL: + 82-2-582-8452	—	—
9 FDK TAIWAN LTD.	8F-4, No.57, Sec. 1, Chongqing S. Rd., Zhongzheng Dist., Taipei City 100, Taiwan TEL: + 886-2-2311-5161	—	—
10 FDK (THAILAND) CO., LTD.	23rd Floor, Exchange Tower, 388 Sukhumvit Road. Kwaeng Klongtoey, Khet Klongtoey, Bangkok 10110 Thailand TEL: + 66-2-302-1517	—	—



**FDK** FDK株式会社

〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号  
品川クリスタルスクエア8階

総務人事統括部 CSR・広報IR室  
TEL:03-5715-7402 FAX:03-5715-7401  
E-Mail:csr@fdk.co.jp

